☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．259　　令和８年10月23日



PISA　国際学力調査

９月初旬、20025年の国際学力調査（PISA）の結果が公開され、テレビや新聞等にて報道されました。この国際学力調査は、義務教育が修了する15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題に、どの程度活用できるかを測ることを目的とした調査で、2000年以降、おおむね３年ごと（2025年以降は４年ごと）に実施されています。

そして、この調査において、日本は「科学コンピテンシー」、「読解力」、「数学的リテラシー」の３分野、すべてにおいてOECD加盟国（３８ヶ国）の中で、初めて１位となったことが大きく報道されていました。

しかし、「読解力」については、日本もOECD加盟国も、前回（２０２２年）調査の平均得点より低下し、高得点層の人数変化は見られないものの、低得点層の人数は増加しているそうです。ＯＥＣＤは、読解力を「すべての学びの土台といえる能力」とし、次の２０２９年の調査では、中心調査となるそうです。また、世界的な成績低下の要因について、

▽　学習意欲や好奇心の低下
▽　長い文章をじっくり読む習慣が減り、理解する前に答えを急ぐ傾向
▽　ＳＮＳや生成ＡＩ（人工知能）の普及による注意力の分散



などを挙げています。

「読書量の減少」や「ＳＮＳや生成ＡＩの普及に関わる課題」は、どの国においても課題となっているようです。

順位ばかりに目を向けるのではなく、経年比較や課題分析をしっかりおこなって、子どもが本を読む環境を整えていきたいものです。

「科学コンピテンシー」
　科学に関する知識やスキルを単に覚えるだけでなく、実際の課題や社会生活の中で活用し、筋道立てて考え、具体的な問題解決や意思決定を行う力

「数学的リテラシー」
　単に計算式や公式を暗記して解く力ではなく、実社会の情報を数字や数式に置き換えて分析し、根拠に基づいた意思決定を行う力

「読解力」
　単に文章を正確に読むだけでなく、自らの目標を達成し、知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考する力

＜公民館で、本を読もう　スタンバード文庫　＞

総合図書館の事業の一つに、「スタンバード文庫」事業があります。
「スタンバード文庫」事業とは、福岡市の教育委員会が、就学前の乳幼児やその保護者が継続的に絵本に触れられる環境づくりのために、身近な社会教育施設である公民館に 100 冊の絵本の文庫を整備したものです。
市内の公民館には、この１００冊の絵本を利用した「スタンバード文庫」の本棚やコーナー等を設けていただき、子どもから大人まで、誰もが気軽に公民館へ立ち寄り、読書に親しむことができる環境を整備して頂くと共に、配布した絵本を乳幼児ふれあい教室や子育てサポーター養成講座などの教材として利用していただくなど、絵本を積極的に活用いただいています。
本の閲覧や貸出方法については、各公民館にて違いますので、お近くの公民館にお問い合わせください。
また、総合図書館では、希望する公民館と共催で「スタンバード文庫読み聞かせ講座」も開催しています。本年度も、福岡市学校図書館読み聞かせネットワーク、福岡おはなしの会の皆様などのボランテイア団体の方々を講師にお招きし、９月から来年の２月まで、市内 25 の公民館での開催を予定しています。
この読み聞かせ講座は、公民館の「スタンバード文庫」の本を活用し、市民の皆様に、「スタンバード文庫」のことや乳幼児期の子どもへの読み聞かせの大切さや楽しさ、絵本の読み方や選本の仕方等を知っていただき、ご家庭での読書活動を進めてもらうことを目的に行っています。機会がありましたら、講座へのご参加をお願いします。



＜第8回　高等学校ビブリオバトル福岡大会　＞

福岡市総合図書館では、10 月２５日（日）に、第８回高等学校ビブリオバトル福岡県大会が開催されます。優勝者は、来年の２月に開催される「第 12 回全国高等学校ビブリオバトル大会」へ出場することになっています。
当日の観戦は自由になっています。興味のある方は、ぜひお越しください。



会　場：福岡市総合図書館３階会議室
日　程：10 月 25 日（日）
＜予選＞ 10：30～12：30
＜決選＞ 13：50～15：00
会場への入室は、それぞれ開始 20 分～10 分前までです。
途中の入退場はできませんので、ご注意ください。

読書の秋、皆さんは、何冊、本を読みましたか？なかなか時間が取れないかもしれませんが、まずは、図書館や公民館を利用して、身近な場所に本を置くことから始めてみませんか？　＜須藤＞



11月の　こと と 人

11 月3日　文化の日

1946 年（昭和 21 年）に、日本国憲法が公布されたことを記念して、1948 年（昭和 23 年）公布・制定された祝日法で「国民の祝日」に定められました。

祝日法によると、「自由と平和を愛し、文化をすすめる」ことを趣旨としています。

11 月 7 日　立冬

「立冬（りっとう）」は、「二十四節気」の一つです。現在広まっている定気法では太陽黄経が 225 度の時となっており、11 月 7 日頃になります。

日付は、年によって変わるので、今年は、7日（土）となっています。暦の上では、この日から冬のはじまりとされています。

工藤　直子

（1935.11.2～　　）

台湾生まれ。日本の詩人、童話作家、翻訳家。1959 年大学を卒業後、総合広告代理店に入社し女性初のコピーライターとなりました。1983 年『てつがくのライオン』で日本児童文学者協会新人賞を受賞後、多数の作品を執筆しています。

中学校 1 年生の国語の教科書には「おれはかまきり」。小学校 2 年生には、「ふきのとう」が掲載されています。

アストリッド・リンドグ

（1907.11.14～2002.1.28）

スウェーデン生まれ。フィクション作家、児童書編集者、映画脚本家。『長くつ下のピッピ』『レンネビリヤのエーミル』『やねのうえのカールソン』『やかまし村の子どもたち』など、多くの著書を残しています。また、リンドグレーンの著書は、世界の 70 か国語以上に翻訳され、100 以上の国で出版され、2017 年の調査では、その翻訳数は、子ども向けの作家の中で、世界 4 番目となっています。

セルマ・ラーゲルレーヴ

（1958.11.20～1940.3.16）

スウェーデン生まれ。作家。『ニルスのふしぎな旅』（1906 年・1907 年）の著者であり、女性初・スウェーデン人初のノーベル文学賞受賞者（1909 年）として有名です。2014 年以前のスウェーデンの 20 クローナ紙幣には、表にラーゲルレーヴの肖像、裏にニルスが描かれていました。

ルイーザ・メイ・オルコット

（1832.11.29～1888.3.6）

アメリカ生まれ。小説家。家庭小説・少女小説の作家として人気を誇り、高く評価されています。『若草物語（Little Women）』（1868 年）と第二部（1869 年）、その続編（1871 年、1886 年）の著者として有名です。近年、スリラー小説を執筆するなど多彩なスタイルを持つ小説家だったことが分かってきました。30 冊以上の本、300 篇を超える作品を残しています。

図書館員のひみつの本棚　第246回

今年、生誕100年及び安野光雅美術館開館25周年を迎える安野光雅さんの絵本を紹介します。

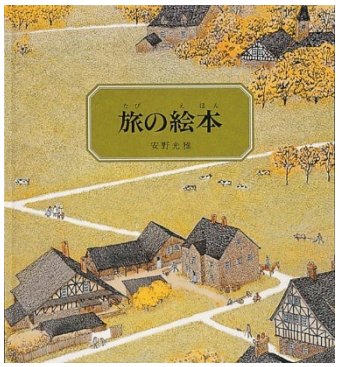
『旅の絵本　中部ヨーロッパ編』

安野　光雅／著　　福音館書店　　1986年　　￥1,600（税別）

＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年★★★　小中学年★★★　小高学年★★★　中学生★★☆
高校★★☆　一般★★☆　（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>
　船を漕ぎ、島の端に上陸した旅人。土地の住人に譲りうけた馬に乗り換えると、目の前につづく道をゆっくりと進んでいきます。
道の先の森や牧草地の小さな集落を越えると、徐々に道幅は広くなり、大きな民家や教会、学校や店舗が現れ、ついに街の中心である広場に辿り着きます。広場では、市場とサーカスが開催され、大勢の見物客が集まっています。そんな賑わいの中を馬に乗った旅人は、ひとり静かに抜けると、道の先の丘へと進み、また別の土地へと向かいます…。
文章はなく、安野さんが旅した美しい土地の風景やそこに暮らす人々を繊細な描写とやさしい色合いで描いた絵本です。ページのあちこちに、ひそかに描かれたその土地ゆかりの絵画・物語の登場人物、安野さんのサインを探すのも楽しい、時間を忘れて見入ってしまう作品です。

<子どもに手渡す時のポイント>
　安野光雅さんの代表作の一つである『旅の絵本』シリーズは、1977年に出版されたこの1冊目中部ヨーロッパ編から、没後に刊行された最終巻オランダ編を合わせて、全10冊あります。
どの作品も、訪れた国の街並みに特色があるので、数冊読んで、世界中を旅する楽しさを味わってみてはいかがでしょうか。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手にとってみて下さい。